

塘研究室現地調査報告

6月23日に、林宏至朗君(M2)の止水性ヒメシロカゲロウ調査に同行して、山形県に行ってきました。止水性ヒメシロカゲロウは福島県で初めて発見された後、青森県、秋田県、宮城県からも発見されました(すべてが同一種ではありませんが)。山形県では昨年度の調査で発見できなかったため、今回再度挑戦しました。米沢市市民の森にある西向沼を最初に、南陽市の白竜湖、新田堤、山辺町の県民の森にあるみこくぼ沼、どじょう沼、はんのき沼(2つ)をまわりました。白竜湖はアメリカザリガニやオオマリコケムシといった外来種が見られ(ゴマフガムシやキイロヒラタガムシなども見られましたが)、かなり汚濁が進んでいる印象を受けましたが、それ以外の池沼のほとんどは水生植物が豊富で、場所によってはゲンゴロウ属の幼虫が相当数見られたり、ルイスツブゲンゴロウやオオミズスマシが生息したりする良い環境に思えました。しかし、これらの池沼からはヒメシロカゲロウは発見できませんでした。

最後に米沢市関町にある養鯉池に立ち寄ったところ、ようやくヒメシロカゲロウを発見することができました。これで山形県における分布が確認できました。ちょうどヒメシジミの発生時期と重なり、その可憐な姿をあちこちで見ることができました。次は岩手県からの発見に挑戦です。

